

## 「大人がもっと夢を語ろう」

先日、俳優の小西博之氏の講演を聴く機会がありました。今号のタイトルは、そのときの演題「いのちの大切さ～大人がもっと夢を語ろう～」のサブタイトルにしました。小西さんは、血尿が出て病院に行ってみると腎臓がんの末期で余命3ヶ月と宣告され、非常にショックを受け、入院して以来毎日泣いていたそうです。病室で、朝目覚めると「今朝は生きていた。」と分かりホッとしたそうです。でも、末期のがん患者と同じフロアに入院していると、末期がんの少年たちは毎日毎日亡くなっていく。「自分は、死にたくない、生きたい。」と思っていたそうです。そんな時、小西さんは、2つの心している教えを思い出したそうです。一つは、中京大学の時の心理学の教授の【目標は楽しいものであること】です。中京大学の野球部で活躍していた小西さんの将来の夢は、「教員になって高校の野球部の監督として甲子園に出場する。」というものでしたが、教授は、「出場を目標にしてはいけない、甲子園の開会式の前日の旅館でまくら投げをすることを目標にするんだ。」といったそうです。出場を目標にしてしまうと楽しくなくなってしまいます。たいへんになってしまいます。でも、まくら投げが目標なら楽しいし、脳がありありとその様子を描けるということなのだそうです。もう一つは、師匠である欽ちゃんの【人生幸せと不幸せは 50 : 50】という法則です。小さな幸せと同じ数だけ小さな不幸せもある。大きな不幸せがあれば、その分大きな幸せがある。捨てる神あれば拾う神あり。ということだそうです。物事をどう考えるか、考え方次第だということです。



そして小西さんが立てた目標が、「治ったら、黒柳徹子さんの【徹子の部屋】に出演する。」です。90日間の闘病生活後、この目標は見事病気の完治とともに達成されました。闘病生活をして、自分を見守ってくれている人の存在や前向きに生きることの大切さ、全ての人々への感謝の心を学んだ小西さんが、今、心を痛めていることは、未成年の子どもたちの自殺です。「何があっても自殺しないこと」、「決して自ら死を選ばさないこと」、「生きていることの素晴らしさ」、「いのちの大切さ」を子どもたちに伝えたいそうです。そのために、大人がもっとしなくてはいけないことが【夢を語ること】だということです。最近、テレビのニュースやインターネット上では、大人に限らず子どもたちの自殺のニュースでいっぱいです。子どもたちの周りに、あまりにも多くの自殺のニュースが増え、子どもが困ったときに「親に相談する」、「友達に相談する」、「先生に相談する」という選択肢以外に【自殺する】という選択肢が増えてしまったのではないだろうかと考えているそうです。だからこそ、子どもたちの周りの環境が、「お父さんは今度こんなことをしてみたいんだ。」「お母さんは、もう少しお金が貯まったら、お店を開きたいんだ。」というような夢をいっぱい語ることが、子どもたちを勇気づけ、たくましく生きる力になるんだというお話だったのではないかと思います。非常に衝撃的で感銘を受けたのですが、残念ながらいろいろな考えが錯綜し、思いをうまく表現することができませんでした。来月12月4日から10日が人権週間となります。最近、考えたことがなかったのですが、私自身もこの期間にこれからの自分の夢について考えてみようと思います。

校長 土井 安博